



親切とそれに応える人

心あったかニュース

NMCAA
NO3

4月24日の朝、沖縄の高校2年の崎元颯馬(そうま)さん(17)は、伯父の葬儀で与那国島に行くために那覇空港に向かっていた。始発のモノレールに乗り、空港駅に到着した時、財布がないことに気付いた。財布の中には往復の航空券代6万円が入っていた。安里駅で切符を買った際に置き忘れたかと思っただけ、戻れば飛行機には間に合わない。葬儀に出られないかもというショックと大金を無くした不安でパニックだった。頭を抱えて駅のホームで座りこんでいた崎元さんに、白髪の男性が「どうしたの」と話しかけた。事情を説明すると「この出身なの。高校はどこといくつか聞き、財布から6万円を出して手渡ししてくれ」という。うれしくてほっとした。飛行機の出発までぎりぎりでお礼を言って飛び出してしまった。本当に申し訳ない」と恐縮した様子。助けてもらい感謝している。授業でつくった自作の文鎮を贈り物として渡したい」といい、沖縄工業高校まで連絡を呼び掛けた。という記事が沖縄の新聞に出た。そして5月10日記事を見た本人から同校に連絡があった。男性は埼玉県のイムス三芳総合病院で勤める脳卒中神経内視鏡センター長の猪野屋博医師(68)。ネットニュースを読んだ同じ病院の医師から伝えられた。猪野屋さんは捜してくれていることに

感激して泣けてきた。信じていて良かった」と涙を流しながら喜んだ。学校から恩人が見つかったことを知らされた崎元さんも今すぐ連絡したいほど嬉しい。あの時の感謝が思いだされて胸がこみあげる」と話した。猪野屋さんは6万円と聞き、そんないかかると一瞬、疑問もよぎったが、あまりに悲しい顔なので、貸すことは先に決めていた。空港駅のホームで6万円を渡し、身元も十分に確認しないまま、出発便へ急がせた。埼玉へ帰ってから知人と話題にしたが、だまされたんだよ」と笑われた。半ば諦めもあったが、俺は信じている」と思っていた猪野屋さん。10日朝に同じ病院の医師からの電話で崎元さんが捜していることを知った。やはり沖縄の人は優しいよ。涙が止まらなかった」と、取材にも泣きながら話した。同日、猪野屋さんから連絡を受けた同校の赤嶺教頭は「こんなに早く見つかり驚いた崎元さんと一緒にお礼したい」と話した。(沖縄タイムスより)

中国インドで緑地増加

NASAでは、地球観測衛星に搭載した放射計で地球の植生の変化を測定してきた。ボストン大学のランガ・ミネニ教授らの研究チームがこれらのデータを分析したところ、2000年以降のおよそ20年間で地球の葉面積は5%増加し、その規模はアマゾン熱帯雨林の大きさに相当することがわかった。中国では、植樹

プログラム「緑の万里の長城」などの植樹活動や森林保護によって緑地の42%を森林が占め、中国やインドを中心とする緑地の増加は、熱帯地域における自然植生の減少の損失を相殺するものではないものの、ネマニ氏「1970年代から1980年代にかけて中国やインドの植生状況はよくなかったが、90年代にこの課題が認識され、今日では状況が改善している。人類には立ち直る力があることを示すものだ」と前向きな見解を述べている。(NEWS WEEKより)

編集後記

新元号、令和のいいことニュース、心があたたくなりました。親切にした人も、された人もお互いが感動していました。真心は感動を生みますね。そしてそんな人の力は地球の緑も増やすことができますのだと思います。